みなみたま

会 報「みなみたま」第14号
発　　行　南多摩同窓会あかね会
発 行 者　堀 竹　充
〒192-8562　東京都八王子市明神町 4-20-1
東京都立南多摩中等教育学校内
URL：www.akanekai.org/
Email：mail@akanekai.org

写真提供：平成 27 年卒業、荒川 美涼

目　次

【巻頭挨拶】
一生の仲間・あかね会同窓会（浜中 賢司）..... 2
御挨拶（永森 比人美）..... 2
【学校の動向】
南多摩中等教育学校の今（松井 水穂）..... 3
南多摩中等教育学校卒業生の進路（徳武 英人）... 5
【新入会員紹介】
南多摩で学んだこと（白須 麻優）..... 6
南多摩での学習（山口 まゆか）..... 6
【南多摩の卒業生】
「つなぐ」ということ（荒川 美涼）..... 7
地球の最果てを訪ねて（和田 智竹）..... 7
人生の価値創造を目指して（森田 弘文）..... 8
南多摩高校の思い出と現在（吉岡 一九也主）..... 8
【特集：「南高新聞」の記憶】
南多摩高校時代 まさに青き春でした（齋藤 良一）.. 9
南多摩高校での思い出（宍戸 敏一）.....
南多摩高校・演劇部の思い出
（川勝(旧性 武田)実鈴）..... 10
演劇部の仲間との交流（平澤(旧性 藏)康子）.... 11
高校時代の思い出（官林(旧性 小野田)恵子）.... 12
【同窓会からのお知らせ】
同窓会の活動及び母校支援について..... 16
令和4年度あかね会総会開催のお知らせほか..... 20

一生の仲間・あかね会同窓会

南多摩同窓会あかね会会長代行　浜中 賢司

桜の開花が平年より早く東京で発表されました。くしくも３月14日母校の卒業式が行われました。毎年世界で様々なことが起こっていても、子供たちの卒業の季節は必ずやってきます。しかし世界では日常の生活さえ厳しい場所もあります。平和のありがたさが身に染みる最近の世界情勢です。

さて、あかね会の会報を年に一度発行させていただいておりますが、巻頭に会長のご挨拶を載せております。令和５年度の会報では会長の堀竹充さんが体調を崩されましたので、会長代行を務めております副会長の私がご挨拶させていただきます。

コロナ禍も少しおさまりかけてマスクも各自の判断となってまいりました。そうしたニュースを見ていましたら、中学生のインタビューでしたが、３年間マスクをしての学生生活だったので、友達の顔を思い出せなくなってしまうと悲しそうに答えていました。長い人生でも最も輝く、そして印象に残る学生時代に、こうした災禍ともいえる３年間を過ごした子供たちには、掛ける言葉もないほど苦しい時期でした。しかし、人は一生であらゆる苦難や楽しい事を、それぞれ一人一人が思い出すこともないほどたくさん経験していくことになります。そうした中でも、学生時代の同級生や同窓生は南多摩で共に学び、部活に励み、遊び、人生の一時を過ごした仲間として忘れることはありません。南多摩高校の時代の卒業生は３年間、南多摩中等教育学校の卒業生は６年間、それぞれ南多摩で過ごした時間は人生の中で輝く期間であります。

長い歴史のあるあかね会ですが、今年はコロナの影響で厳しい経験をされた新会員146名が新しく仲間になりました。学校創立100周年から15年が経過した今、同窓会のあり方も時と共に変化していくことが求められてきています。100年を超える同窓会の歴史は重いものがあり、大切にしていくべきことは言うまでもありませんが、どのような活動をしていくべきか、その時々の情勢を考慮しながら運営をしていくことも必要であります。そのため、今後も会員の皆様のご意見をうかがいながら、会をしっかりと継続していくための議論を重ねてまいります。

そして、卒業生として現役の仲間を励まし見守ることを第一に、会員の親睦をさらに深めていくことを心掛けてまいります。

御 挨 拶

東京都立南多摩中等教育学校 校長　永森 比人美

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症のため一部制限はありましたが、体育祭・合唱祭・文化祭の三大行事を始め、秋の宿泊研修旅行等、コロナ禍で控えてきた教育活動を再開することができ、御支援いただいた関係の皆様方に心から感謝申し上げます。また、本校の教職員は生徒のコロナ禍の閉塞感を少しでも解消しようと、各行事の企画・立案・実施に向け、委員会・担当生徒と共に時間をかけて準備を行い見事に行事をやり抜きました。大変嬉しく思います。

さて、本校は文部科学省から指定を受けたＷＷＬコンソーシアム構築支援事業の取組を今年度をもちまして終了いたします。生徒は「総合的な学習の時間」や「総合的な探究の時間」といった授業の枠組みを超えて探究学習を発展させ、複数の学年で構成された有志団体が地域貢献や環境問題の解決に向け積極的に活動し、その活動はあらゆる場面で評価され表彰を受けております。また、この事業の中で本校の教員が作成した「探究の独自テキスト」は本校の授業だけでなく、他の都立高校でも還元され各学校ごとにカスタマイズされて活用されていると伺っております。さらに文理にとらわれない文理融合のカリキュラム開発による教育課程の改善は、大学入試改革で求められている文理横断型の入試にも十分対応できる生徒の資質・能力の育成に役立っていることが、総合型選抜や学校推薦型選抜において国公立大学に合格していることから立証されています。

今後は培ってきた多様な教育活動を継続・発展させ、幅広い視野と知識を持ち備えた人材の育成に向けさらに邁進してまいります。あかね会の皆様の御支援・御協力を賜りますよう、引き続きよろしくお願い申し上げます。

南多摩中等教育学校の今

南多摩中等教育学校 副校長　松井 水穂

あかね会の皆様、いつも多大なる御支援・御協力をいただきありがとうございます。本校は南多摩中等教育学校として13年目を迎えました。コロナ禍での教育活動も３年目、様々な制約の中にありながら、目標高く取り組む後輩たちの姿を、紙面をお借りして御紹介したいと思います。そして、本校の取組について御理解いただき、本校のさらなる発展に向けて、今後もあかね会の皆様の御支援をいただければ幸いです。

１ 探究活動を支える指定校事業及び助成

(1) ＷＷＬコンソーシアム構築支援事業（文部科学省）

令和元（平成31）年度から３年間の指定を受けた本事業は、コロナ禍のために１年間指定が延長となり、今年度が最終年度の４年目となりました。11月12日に成果報告会を行い、都立学校５校、オンラインでは他府県から３校が参加しました。第１部では東京都及び白鷗高等学校と本校の取組を発表、第２部では生徒が主体となってパネルディスカッションを行い、地球の未来に向けた取組について提言しました。白鷗高校と本校の生徒は報告会に向け何度も協議を重ねてきました。各学校での取組の発表では、他校の取組を知るだけでなく自校の取組を改めて見直すことができたという声がありました。また、パネルディスカッションでは討論することの楽しさと難しさを学んだという声もありました。さらに、今後、「平和」をテーマに考えたいという思いも生まれるなど、実りある会となりました。

成果報告会の様子（11月12日）

(2) 東京都教育委員会指定事業

① Diverse Link Tokyo Edu 事業（高校生研究員プロジェクト）

ＷＷＬコンソーシアム構築支援事業と関連し、２名の生徒が支援を受け、大学の先生からの指導を直接受けながら論文を作成しました。

② 防災教育研究指定校

防災支援隊を中心に、避難所設営や救急救命講習を実施、さらに、高校生フォーラムで防災支援隊の取組を発表しました。

③ TOKYOデジタルリーディングハイスクール研究指定校

デジタル教科書を活用した個別最適な学びと協働的な学びを実現するとともに、学習履歴や校務系データ等の蓄積・分析・指導等への活用における実証研究及び先端技術を活用した学びについて実践的な研究を行うため、教員が情報を共有しやすくするためのプラットフォームの設置、デジタル教科書の活用等を地道に行っています。

④ Global Education Network 20　(GE-NET20)

東京グローバル人材育成指針に基づく先進的な取組を推進する学校として令和４年から３年間の指定を受けています。ASEAN各国の留学生とのオンライン交流会、イタリアデラッラカ高校との協働研究「Passoプロジェクト」、ベトナムチューバンアン高校との国際交流プログラムなど、グローバルな学びの場を提供しています。

⑤ 情報科目の充実を図るための教員支援モデル校

デジタル化の急速な進展とともにＩＴを活用できる人材が更に求められるなど社会情勢が変化してきたことを踏まえ、令和４年度から新設された「情報」の授業について、継続的に教員を支援し、授業の質をより高めていくことをねらいとした、情報科目の充実を図るための教員支援事業です。本校の情報科目は優秀な時間講師が担っているという現状を踏まえ、現在の授業のレベルを継続できる体制づくりを目指しています。

(3) 三菱みらい財団

「合言葉はCross the border、自分の枠を越える探究学習～多様な学びによる質の高い探究学習を通じて、生徒のキャリア形成を図る～」として、大学、企業、海外と連携して生徒の視野を広げ、自分や社会、国境の枠を越えた「生徒のワクワク」を大切にした探究学習を行い、「学びの意欲」を生徒のキャリア形成につなげていくという取組が認められ、約200万円の助成を受けています。

２ コロナ禍における学校行事

(1) 宿泊行事・校外学習

令和４年４月、６年生が３泊４日の北海道研修旅行を実施し、全員無事に帰ってくることができました。

10月には１年生が八ヶ岳への１泊研修旅行、２年生が救急救命講習、都庁及び大使館ツアー、３年生が京都・奈良研修旅行、４年生が千葉研修旅行、５年生が東北研修旅行を実施することができました。天候にも恵まれ、無事に全行程を終了することができました。

（2）南魂祭

５月の体育祭は、富士森公園陸上競技場において、３年ぶりに６学年揃って実施することができました。こちらも好天に恵まれ、多くの感動が生まれました。

６月の合唱祭は、J:COMホールで前期生・後期生を分けて開催し、それぞれのクラスが素晴らしい歌声を響かせました。

９月の文化祭では、すべての学年が自由に校内を回れるよう、文化祭実行委員会が計画を立てて開催しました。

これらの三大行事では、生徒と教員、ＰＴＡ本部役員の方々が感染症対策を協議し、開催方法について慎重に検討を重ねた結果、感染症によるクラスターを防ぐことができました。南多摩の力を感じた行事となりました。

（3）「子供を笑顔にするプロジェクト」の活用

① 吉田沙保里さんサプライズ登場

４月22日、本校にオリンピアンの吉田沙保里さんがサプライズで訪れ、励ましの言葉を送ってくださいました。

② ２年生校外学習

10月に実施した都庁・大使館ツアーは、都庁・大使館との調整、貸切バスを支援いただきました。

③ ３年生・４年生の観劇

３年生はライオンキング、４年生は椿姫を観劇しました。

④ ５年生サンセットクルージング

東京湾をクルージングしながら、テーブルマナー講習を受けました。

⑤ 体育祭

富士森陸上競技場賃借料及び貸切バスを手配いただきました。

⑥ 総文祭見学バス貸切

太鼓部が出場した全国総合文化祭を前期生が観戦する際、貸切バスを手配していただきました。

４ 有志団体の活動

（1）各種コンテスト及び発表会等への参加

今年度もTokyoサイエンスフェア、科学の甲子園東京都大会など様々なコンテストに出場し、活躍しました。また、「大切な命を守る」全国中学・高校生作文コンクール高校生の部では、文部科学大臣賞・警察庁長官賞を受賞しました。

（2）ＦＷ活動

檜原村、高尾山ビジターセンターでのＦＷ，アロマオイルづくり、酪農体験などを行い、一人一人の興味・関心を伸ばしています。

（3）ふれあい感謝状21の受賞

昨年度から開始した八王子市立第四小学校への学習支援は、後輩たちに引き継がれ、今年度も活動を続けています。その活動が認められ、「ふれあい感謝状21」を受賞しました。

５ 部活動

本年度は全国総合文化祭が東京都で開催されました。

後期太鼓部は全国総合文化祭で準優勝を果たし、国立劇場での公演を行いました。また、そのオープニングとして本校の薙刀部が演武を披露し、多くの観客を魅了しました。

後期太鼓部はこの１月の都大会で優勝し、令和５年度の全国総合文化祭への出場が決まっています。

後期薙刀部は今年度のインターハイに初めて団体で出場しました。国体選手にも選ばれています。

南多摩フィルハーモニーは全国大会出場を惜しくも逃したものの、音楽に向き合う真摯な姿勢を保ち、素晴らしい演奏を披露しています。

これら全国的な活動は、あかね会からのお祝い金や、楽器の運搬代の補助などが無くては成り立ちません。紙面をお借りして御礼申し上げます。また、おかげさまで、これらの結果により、様々な場面で本校が指名をいただくことも増えています。

これからも本校がすでに持っているアドバンテージを生かし、伸ばし、南多摩の良さとは何なのか、南多摩の強みとは何なのを常に問いかけ、新しいチャレンジを恐れずに、グローバルな見地をもった次代のリーダーを社会へ送り出していきたいと考えています。そして、その生徒たちが「あかね会」の息吹を綿々と受け継ぎ南多摩の伝統がさらに発展していくことを願ってやみません。あかね会の皆様におかれましては、今後とも南多摩中等教育学校への御支援、御協力をいただきたく存じます。

教職員一同、今後もあかね会の益々のご発展をお祈りしております。

南多摩中等教育学校卒業生の進路

南多摩中等教育学校 進路指導部主任　徳武 英人

今年卒業の８期生は後期課程進級と同時に新型コロナ感染症による臨時休校、分散・時差登校、３大行事・部活動の制限という困難な状況を乗り越えてきました。大学入学共通テストは全員、無事に受験することができました。その後の個別入試で、国公立大学の後期日程までに 53 名が合格しました。特に難関国公立大学では東京大学１名、京都大学１名、一橋大学１名、東京工業大３名、国公立大医学部１名の合計７名が合格しました。中期（3 月 8 日）後期日程（3 月 12 日）まで粘って受験した生徒も多く、最後の最後までがんばっていました。また宮崎大学農学部獣医学科、東京藝術大学音楽学部など現役生では合格が難しい大学にも合格を果たしました。国公立大学では学校内外の様々な活動を活かして総合型選抜・学校推薦型入試で合格した生徒も多く出ました。一橋大学、北海道大学、東北大学、お茶の水女子大学、筑波大学人間学群、東京外国語大学に合格しました。

私立大学では早慶上智・理科大、ＧＭＡＲＣＨに多くの生徒が合格し、良好な結果を残しました。

８期生（2023年卒）合格実績　（2023年3月27日現在）

１　国公立大学（現役のみ）

国公立大学	合格者数
北海道大学	2
東北大学	2
茨城大学	1
筑波大学	3
埼玉大学	1
お茶の水女子大学	2
電気通信大学	3
東京大学	1
東京医科歯科大学	1
東京外国語大学	2
東京工業大学	3
東京農工大学	4
東京学芸大学	3
東京藝術大学	1
一橋大学	1
横浜国立大学	2
山梨大学	1
信州大学	2
静岡大学	1
金沢大学	1
三重大学	1
京都大学	1
宮崎大学	1
東京都立大学	9
都留文科大学	1
国立看護大学校	1
防衛大学校	2
計	53

上記のうち医学部医学科	合格者数
三重大学	1

上記のうち獣医学部獣医学科	合格者数
宮崎大学	1

注）８期生　　（現役のみ　卒業生150名）

２　私立大学（現役のみ）

私立大学	合格者数
早稲田大学	10
慶應義塾大学	13
上智大学	7
東京理科大学	13
国際基督教大学	1
明治大学	42
青山学院大学	14
立教大学	9
中央大学	38
法政大学	50
学習院大学	3
成城大学	6
成蹊大学	2
國學院大学	3
明治学院大学	2
武蔵大学	1
芝浦工業大学	2
日本大学	19
東洋大学	12
駒澤大学	5
専修大学	8
津田塾大学	3
東京女子大学	3
日本女子大学	4
日本社会事業大学	1
東京農業大学	11
工学院大学	10
東京都市大学	5
東海大学	2
多摩美術大学	2
国立音楽大学	1
同志社大学	1
立命館大学	3
私立大学総計※	410

３　短大・海外大学・専門学校（現役のみ）

短大・海外大学・専門学校	合格者数
Vancouver Island University	1
昭和大学付属看護専門学校	1
國學院大学北海道短期大学	1

合格者数：複数大学の合格者は重複計上
※　掲載大学以外の合格者を含む

新入会員紹介

南多摩での６年間

令和５年卒（中等８期生）　桑原 彩美花

南多摩での６年間の学生生活を振り返ると私たち８期生は「初」なことを沢山やらせていただいた学年であったと感じました。例えば３年生の時の研修旅行で行った40kmハイクです。40km歩くのは想像していたよりも何倍も辛く、歩いていた時は弱音ばかり吐いていました。しかし今になれば辛いことがあっても、あの時40km歩くことができたのだから乗り越えられる、と考えるようになったり、歩いている時も携帯電話は無く強制的に自分と向き合わなくてはいけない環境であったため、普段は出来ない自分を見直す良い経験になりました。また５年生になり後期生になってから初めての体育祭を行うときも新型コロナウイルスの影響で２日間に分けて競技を行ったり、私も参加させていただいた応援団の応援合戦は録画での披露であったりと初めてのことを沢山経験をさせて頂きました。このように１年生の頃から、また後期生になってからはコロナ禍で出来ることが限られている中、様々な経験をできるチャンスを与えてくださった先生方には感謝しております。

また私の南多摩の生活の中で大きなこととして部活動が挙げられます。私は１年生から６年生の夏まで太鼓部に所属していました。後期生になってから新型コロナウイルスの影響でマスクをして演奏しなくてはいけなかったり、二酸化炭素濃度によって練習を中断しなくてはいけなかったりと以前とは全く異なる環境での部活になってしまいました。しかしそれを言い訳にして演奏のレベルを落としたくなかったので、屋外での練習を増やしたり、筋トレ・柔軟メニューを充実させたりと以前よりも様々な工夫をして部活に取り組むようになりました。八丈合宿に一度も参加出来なかったり、参加したかったお祭りに参加できなかったりと心残りはありますが、それ以上に活動できる時間が少なかったからこそ濃い時間を過ごす事ができ、間違いなく自分の人生の中で1番大切な忘れられない６年間になりました。また大規模な部活であり様々な意見があるからこそ新たな見解を発見出来たり、太鼓の知識だけではなく人として大切なことを学ばせて頂いたりもしました。

他の学年とは少し変わっていて沢山迷惑をかけてきたにも関わらず、見捨てずに最後まで指導を続けて頂いた先生方、学習や部活動などにおいて沢山のご支援をして頂いたあかね会の方々に感謝しております。この南多摩での６年間学びを生かし、これからも精進していきます。

新入会員紹介

南多摩での６年間

令和５年卒（中等８期生）　城ヶ﨑 健真

私が南多摩を志望した理由は、説明会での当時の生徒会長の姿を見て「私はこの学校に入るんだな」と不思議に惹き寄せられたからなのですが、我ながらいい勘をしているなと今振り返って思います。南多摩に入れたこと、南多摩で学べたことは私の中で宝物として残り続けるでしょう。

私はサッカー部に６年間所属しました。部活動を通して顧問である飯樋先生と俵先生には普段の学校生活では学べない多くのことを教えていただきました。中でも私の心に残っていることは「未来の自分を楽しみにする」ということです。未来に自分の理想を思い描くことで今自分に足りないものはなにか、それを補うためにどういったことをやるべきなのかを考え、自分は理想に近づいていると思い困難を楽しむこと。やめたくなるほどのきつい練習や試合に勝てなかった時にこの言葉は私を大きく支え、成長させてくれました。この言葉を胸に今後も様々なことに挑戦していきたいと思います。

また後期では生徒会として様々な活動に携わらせていただきました。特に行事の運営に携われたことは非常に良い経験となりました。裏方の大切さや大変さはもちろんですがイレギュラーな事態に対応する力、周りと協力して一つのものを作り上げることの素晴らしさを学べました。２年ほどの短い間でしたが、生徒会活動を通して人間力が大きく養われたと思います。

後期での学校生活はコロナウイルスにより様々な制約の中での生活となりました。しかし、その中でも友人たち、先生方、あかね会の皆様、家族の支えもあり、とても密な時間を過ごせました。唯一心残りがあるとすれば一度だけ遅刻をしてしまったことです。南多摩での６年間で学べたことを胸に、今後も未来の自分に期待をしながら成長していきたいと思います。

南多摩の卒業生

「つなぐ」ということ

平成 27 年卒業　荒川 美涼

南多摩高校最後の学年として入学してから早くも10年以上経ち、社会人生活５年目を迎えました。

当時を思い返すと、楽しかったことから小恥ずかしいことまで様々な記憶が蘇りますが、3年間を通して南多摩のあたたかな雰囲気に包まれながら、自由で穏やかな学校生活を送れたことに感謝しています。

部活は水泳部に所属していました。実際に学校で泳げる期間は短く、夏以外の時期は筋トレや土手ランなどの陸上トレーニングが主な練習内容でしたが、水泳部での活動は学校生活の思い出の大半を占めています。

特に、中等１期生に向けた部活動紹介は、思い出深いです。泳げる期間が限られていることもあり、そんな中で水泳部のことを認識してもらうには…と、同学年の部員とああだこうだと話し合い、結局、世界水泳のテーマ曲であるB'zの『ultra soul』に合わせて踊ることにしました。キャップを顔にかぶり、ゴーグルもつけて…。恥ずかしかったですし、その甲斐があったのかどうかは今となっては分かりませんが、一緒に部活を盛り立ててくれる後輩もでき、それまで先輩に頼っていた気持ちから、自分たちが運営していくんだ、という自律心や一体感が芽生えるきっかけになったと思います。

昨年、水泳部の友人に声をかけてもらい、令和４年度あかね会定期総会に出席しました。

当日は、プログラムに沿って総会や講演会が進み、緊張しながらも無事閉会となった頃、あかね会の先輩が微笑みながら話しかけてくださりました。

修学旅行先の沖縄で友人と（筆者は中央）

「高校最後の学年として、中等教育学校にうまくバトンを繋いでくれてありがとう」。

私自身は、在学中にそのような行動ができた自信はあまりないのですが、そのときの言葉が密かに嬉しかったです。

在学中に感じた南多摩のあたたかな雰囲気は、先輩方が紡いできた「南高らしさ」だったのかなと思います。そして、私が南多摩で過ごした日々も、次に続く南多摩の一部として少しばかり繋がっているのかもしれないと思うと、卒業生の一人としてしっかり日々を歩み続けよう、と背筋がしゃんと伸びます。

南多摩の卒業生

地球の最果てを訪ねて

平成 23年卒業　和田 智竹

［地球の最果て］・［日本から14,000km離れた宇宙よりも遠い場所］、それが南極大陸。

【死を常に感じ、音やにおいがなく、美しく静謐な場所】。これが、私が南極大陸を訪れて感じた南極への印象である。今から5年前、私は第60次日本南極地域観測隊の一員として、生物の研究を行うために南極大陸を訪れた。

クリスマスの真っ只中である2018年12月末。どこまでも続く白の世界が眼下に広がった（写真1）。そのような景色を傍目に見ながら、砕氷船しらせから乗り込んだ

写真 1. 氷に覆われた南極大陸

ヘリコプターは目的地へと進み、ついに南極大陸へと降り立った。南極というと氷の世界のイメージがあるが、南極大陸の約0.2%は、夏になると雪が融け岩盤が剥き出しになる。木々や草が生い茂ることのないこの岩盤地帯は、通称【岩石砂漠】とも呼ばれる（写真2）。これからおよそ

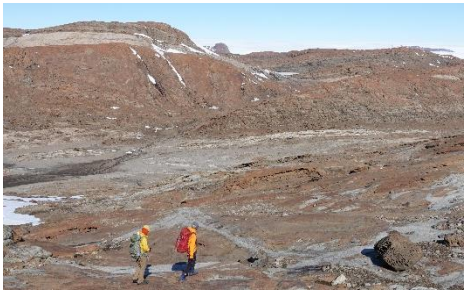


写真 2. 雪が融けた岩盤地帯

１ヶ月、岩石砂漠と氷が織りなす世界を転々としながら、生物の調査を進めていくのだ。南極までは、砕氷船しらせで行く。数ヶ月に及ぶ航海であるため、砕氷船しらせの船内には、風呂（海水風呂）や医務室、トレーニング室や散髪室といった設備が整っている。甲板ではランニングなどを行うこともできる。

船は、【吠える40度、狂う50度、絶叫する60度】と言われる、荒れた海域を越え、南極を目指す。そして、オーストラリアを出港してから1ヶ月もすると、日本の観測拠点である昭和基地へと辿り着く。ほとんどの観測隊員は、昭和基地で仕事を遂行するのだが、私は生物の調査を行うため、昭和基地から離れた岩盤地帯で、キャンプ生活をしながら生物調査を行う。

写真 3. ヒルガタワムシ

極限環境である南極大陸の陸上環境では、南極の厳しい寒さや乾燥に耐性をもつ生物のみが生息する。コケや地衣類、クマムシやヒルガタワムシ（写真3）といった聞いたこともないような生物がひっそりと暮らしている。私はこのヒルガタワムシという生物を研究するために南極を訪れた。調査用具や1ヶ月分の食料を整理しつつ、ベースキャンプを設営し、ヒルガタワムシの研究を行うために、常に太陽が照り付ける岩石砂漠を毎日歩く。この時期は【白夜】のため、太陽は沈まない。調査以外の時間は、ご飯を食べ、時には談笑し、あとは寝る。ただそれだけの生活だ。もちろん、ネットは使えない。船内でもネットは使えないため、約4ヶ月はネットとは隔絶され、情報化社会から一時的に分断される。

岩盤を歩いていると、時折、無風となる。そうすると、音も一切せず、やがて静寂の時が訪れる。視覚では、景色という情報を認識しているものの、動くものは一切なく、聴覚と嗅覚では一切の情報が検知されないのだ。ピタッと時が止まった感覚に襲われ、この世界には自分一人しかいないと思えた。これが、私が南極で強烈に感じた印象なのだ。

1ヶ月の調査を終えて船へ戻る。いよいよ南極を離れるのだ。まもなく、海は氷で閉ざされ、長い長い冬と夜（極夜）がやってくる。常に照り付けていた太陽も沈み始め、数カ月ぶりに感じる夜の世界（写真4）。夜空にはオーロラが揺れていた（写真5）。

3月末。いよいよオーストラリアが見えてきた。甲板に出ると久しぶりに匂いを感じ、一つ一つ体の機能が戻りつつあるのを感じた。シドニーに到着後、早くネットを使いたいという思いと共に、フリーWi-Fiがある場所へと向かった。数千件のメールとLINEの通知、絶え間なく更新されるニュース。4カ月ぶりに触れたネットの世界は、一瞬で私の心身を蝕んだ。いかに、普段の日常で無意識のうちに多くの情報と接し、それらが私の心を侵しているのかを実感した。南極というと、どうしても自然の過酷さや美しさの話が先立つ。しかし、このような人間としての生物学的側面や、人間社会に対しての思いもまた、地球の最果てを訪れたからこそ感じることなのかもしれない。

写真 4. 満点の星が輝く夜空

写真 5. 夜空に輝くオーロラ

これを書いているのが2023年の1月末日。先日、博士号の最終審査を無事に終え、4月からは、引き続き研究を続けていく。自身の手で明らかにしたい研究テーマがあるのだ。それを成し遂げたら、今自分が住んでいる地球を見てみたいという思いがあるため、5年後に募集される宇宙飛行士試験に挑戦したいと思っている。私は、物心ついたときから根っからの生き物好きで、昆虫採集を趣味とし、南米や東南アジアのジャングルで、現地人と生活をしながら虫を採ってきた。そして、趣味や研究を通じて世界6大陸の地を踏み、現在に至る。実は、来週にも南米のアマゾンの奥深くにあるインディオの村に滞在し、虫採りをしに行く。そこでは、どんな出会いや世界が待っているのだろうか。引き続き、知的好奇心の赴くままに、地球の素晴らしさを堪能していきたいと思う。

読んでいただきありがとうございます。もし、南極へ行きたいという方がいれば、是非観測隊の公募へ挑戦してみてください。

（https://www.nipr.ac.jp/antarctic/recruit/）

また、学校の先生も、教員派遣という枠で毎年1～2名の募集があります。教員の方で興味ある方はぜひ挑戦してみてください。

最後になりますが、【地球の最果て】南極はとても美しく静謐な場所でした。

南極で撮影した写真

南多摩の卒業生

人生の価値創造を目指して

昭和 49 年卒業　森田 弘文

森田弘文

昭和45年春４月、都立南多摩高校に入学。夢と希望に満ちた高校生活も１年生の始めの数か月頃まででした。思い描いていた理想と現実の違いや、その他諸々の理由もあったのでしょう。

全てにやる気を無くし、無気力・無関心・無感動の三無主義の厭世的・懐疑的な思いで毎日を悶々と過ごすようになっていました。勉強をする意味も見出せず、「今日から全てやめます！」と宣言し、遊びまくる毎日でした。授業を抜け出しては映画を見に行ったり、ビリヤードにはまったり、徹夜で麻雀を打つ喫茶店に屯す等、品行方正の模範の南高生とは程遠い存在でありました。成績も当然の結果で急降下。担任の先生も大変心配されたようで、突然、母親に「最近の森田くんの行動が気になるのですが？」と電話があったとか・・・。それでも、あまりうるさい事を言わずに、好きなようにさせてもらった親の懐の深さには、今思えば感謝です。勉強をしない代わりに、遊ぶ金欲しさにあれこれと様々なバイトだけはよくやりました。２年生の夏休みの17日間の北海道冒険旅行の資金作りのため、必死になって数万円を貯めたりもしました。日々汗して働く事は楽しいな、体を動かす事は気持ちいいなと感じていた自分がいました。

思いきり好きな事だけをやってきたので、後悔などは皆無でした。ただ、そんなグウタラな生活でも受験期になると、大学はどうしようか、自分の進路は何をすればいいのかと少しは考え始めました。その時、北海道で見た雄大な自然の素晴らしさと、牧場に放牧されている牛や馬の姿に魅了されたからでしょうか、獣医学部を受験することにしました。しかし、机に向かい参考書を読んでもちんぷんかんぷん。やはり、予想通り吉報は届かず浪人生活に突入！

この頃、将来の進むべき道や生きる意味と価値について、真剣に思索し思いを巡らす事が多かったと記憶しています。その後、紆余曲折や様々な人々との邂逅があり、一条の光明を見出した思いで、「人生の師」を求め創価大学経済学部に入学。そして、信頼できる先輩や友人との交流等に恵まれ、前向きに自らの人生について深く考え、人と関わる仕事をしてみたいと思い教育学部転部を決意しました。当時、不治の病（消化器系のガン）に侵されていた三男兄を看病しながらの転部試験でした。受験勉強のために本を開いても、兄の世話で睡眠不足と疲労困憊の毎日で十分な準備もできず、天意や使命があるならば、との思いでのダメ元受験でしたが、奇跡的にも合格する事ができました。「いい先生になれよ！」と励ましてくれた兄の言葉を、終生忘れていけないと誓ったその日。兄は、23歳という短い生命を完全燃焼させ、安らかに旅立っていきました。昭和52年春のことでした。

その後、教育実習校の校長から、東京都の試験に合格すれば採用するからとの励ましをいただき、所属校も決まり、４月からの教員としての新生活を夢見ていました。しかし、新規採用の最終身体検査において、赤緑色弱という色覚異常の結果、急遽採用保留になってしまいました。ところが、様々な不思議な縁があり、幸いにも多くの様々な人々が応援してくれ、条件付きということで採用通知を受ける事ができました。八王子市教育委員会にて、この通達を受け、五体が歓喜に震え滂沱の涙が頬を伝わり落ちた瞬間を、今でも鮮明に覚えています。

いよいよ小学校教員としてのスタート。新卒の頃は、何も分からないまま無我夢中の毎日でありました。教材研究に明け暮れ、板書計画や授業略案ノートを作成し実践しても失敗の連続。自分は教員としてやっていけるのかという不安もたくさんありましたが、それを支え励ましてくれたのは、クラスの子供達や保護者・地域でした。もちろん周りには経験豊富な先生方も多く、多くの事を学ばせていただいたと、今でも心から感謝と尊敬の気持ちでいっぱいであります。

教職に就いて数年した頃、教科を絞り自らの専門性を高めていきたいと思い、様々な研究会に参加・模索し、自然教育・理科教育等をライフワークにすることにしました。植物や昆虫については、在野の諸研究団体や独学で学び、後に東京都教育研究員や同教員研究生も経験させてもらいました。理科教育関係の研修会の講師として招聘されるようになり、理科指導参考書の執筆を依頼されたのもこの頃です。その数年後の平成10・11年度には、東京都選出の派遣学生として兵庫教育大学大学院の修士課程に学ぶという幸運にも恵まれました。この２年間は、大きな転機となり、植物というものを学術的に捉え、分類・植生・生態・形態について深く専門的に学ぶことができ、研修会等での講義内容もより幅広く充実させることができたと感じています。

大学院修了後は学びや研究の領域が増し、植物や昆虫の他に小動物・野鳥・天体気象・地質と自然科学全般へと学びの分野を広げていきました。そこで、教員としての原点に立ち戻り、学びの経験や研究の成果等を子供達にも伝えていきたいと考え、平成13年からクラス・学年

の子供達に、自然だより「花ちゃん・オー君・モンタ博士のてくてく通信」を創刊することにしました。子供達にも分かりやすく親しみのあるものにするため、会話形式で登場人物のキャラクターもオリジナルで考えました。

愛する奥さん（元東京都小学校教諭・都立国立高校昭和52年卒、通称キクちゃん。私はヒロくん）には、とても上手な植物画やステキなイラストを描いてもらい感謝の気持ちでいっぱいです。夫婦合作で作りあげる事ができ、大変嬉しく誇りに感じています。この通信は、教員時代の半分の約20年間書き続け、総合計約1800編。保護者や地域の方々からも「面白くて大人が読んでもためになる。」「このお便りで自分の地域の自然の素晴らしさを再確認した。」等の声には、とても勇気づけられ励みになりました。その後、東京書籍株式会社より、全国の子供達にも「てくてく通信」を見せてあげてほしいとの依頼で、全国バージョン版に加筆訂正し総数600編を現在も情報発信中です（『モンタ博士』で検索すれば直ぐに見る事ができます。写真・イラスト・実験や観察結果・動画なども豊富です）。

親子自然教室　野外編イラスト

理科指導の参考書については、数冊（共著）を書かせてもらう機会もあり、未熟な教育実践や稚拙な研究内容でしたが、執筆させてもらい大変嬉しく思いました。また、理科教育関係の他に、八王子市制100年記念事業の一環としての『新・八王子市史自然編』の特定部会委員としても貴重な仕事をさせてもらいました。同書は、師事している奥田重俊横浜国立大学名誉教授の要請によるもので、著名な先生方と共に調査記録を行い、休日返上で八王子の山野を駆けずり回り「八王子動植物目録」も完成させることができました。数十回に渡るフロラ調査を通し分類同定の能力向上もでき、とても勉強になったと感謝しています。調査の他に担当として執筆した「八王子の自然から生き物の絆を学ぶ」は、植物だけでなく他の自然分野とも関連付け興味・関心が高められるよう、様々な創意工夫を重ねながら写真や図表も豊富に入れながら書きあげました。

その後、校長となり、学校経営の柱として「自然教育」を定めました。国立市の自然環境を生かした授業実践を自らたくさん行いました。校長室とその隣の部屋を「モンタ博士ＬＡＢＯ」として、多くの動植物の写真掲示や自然物の展示等を行い博物館の用に模様替えするなど、様々な活動を展開できたことは、とても嬉しく協力をしてくれた教職員には心から感謝しています。また、理科・生活・総合学習等では、校内で模範授業を実践し、後輩や若手教員への指導・育成も行い、総数50編の指導案集「校長出前授業」としてまとめることもできました。

モンタ LABO での昆虫標本作り

校長勇退後は、教育委員会に所属し不登校児童・生徒の教育支援を行ってきました。また、現在は、日本女子大学非常勤講師として、次代の教員養成に微力ながらもこれまでの教職経験を生かし、一生懸命に指導助言をしています。さらに、日野市社会教育センター「モンタ博士のわくわくドキドキ　しぜん探検ＬＡＢＯ」・「大人のための自然観察会」、ＮＨＫあきる野オープンスクール「モンタ先生とわくわくおもしろ自然はかせ」、ＮＨＫ文化センター町田教室「親子で歩く！植物や昆虫のおもしろく楽しい自然観察！」等の講座を担当。なお、東京都小学校理科教育研究会の夏季研修会（植物）、区市の理科教育研修会、生活科・理科・総合学習の校内研究会や自然教室、八王子市民自由講座、公民館行事等の講師も担当しています。

これからも、生き物の世界の神秘さや不思議さ・面白さや驚き・自然の偉大さや素晴らしさ等を子供達に伝えていきたいと考えています。自然体験や豊かな自然環境も減少し、映像やネット情報に頼ってしまい、瑞々しい感動が得られなくなっている現状があり、理科離れが叫ばれています。様々な動植物と触れ合い、自然を学び感じる活動は、確かな科学的な思考力や技能を深め、自然愛護や環境保護への理解を促し、持続可能な社会への興味・関心を高めることができると確信しています。

「沈黙の春」「センス・オブ・ワンダー」の作者で、著名なアメリカの生物学者レイチェル・カーソンの言葉に、『自然の不思議さや神秘さに目を見張る子供達の感性を培うためには、それを一緒になって再発見し、感動を分かち合う大人が少なくとも一人、子供の隣にいなくてはならない』とあります。これからも、その「一人の大人」であり続けると共に、「多くの大人」の覚醒にお役に立ちたい、と願っている昨今であることをお伝えし、筆を擱きたいと思います。

南多摩の卒業生

南多摩高校の思い出と現在

昭和 49 年卒業　吉岡　一九也主

昭和46年当時の都立学校入試ですが、学校群制度があり、南多摩高校、日野高校、富士森高校の３校が同じ群でした。３校の中からどの高校に入るか、希望することは出来なかったのですが、たまたま南多摩高校に入学することになったのは、何かの縁だと思っています。

入試会場も南多摩高校であり、その日は雪が降っていて非常に寒かったのを覚えています。校舎は木造モルタルで、ダルマストーブの煙突から少し煙が漏れている状態でした。現在ではエアコンで快適でしょうが、50年程前はストーブがまだ使われていました。思い出すと懐かしい感じがします。

思い出としては、１年生のときに５月連休に行った、長野県諏訪郡富士見町への１泊の野外教室があります。

乗鞍岳登山の筆者

なぜ思い出に残っているかと言いますと、2日目に入笠山に登ったのですが、2000m級の高い山とは当時は意識がありませんでした。

しかし、55歳を過ぎてから、地元中学校の同窓生数人で入笠山に登山する機会があり、そのとき、山岳パノラマの素晴らしい景色が見られる場所であることを知ったのです。高校時代に登った山だったことを思い出し、非常に感慨が深まりました。

このときは冬で、東京でも40㎝ほど雪が積もった後で、入笠山も積雪が多く、スノーシューを履いて登りました。

下り坂の斜面では、尻にプラスチック製の板を敷いて滑って楽しんできました。また、この山は、６月頃にすずらんの可愛い花が一斉に咲いて、とてもきれいです。皆さんも一度行ってみてはいかがでしょうか。

ところで、私は南多摩高校を卒業して、東京都に就職したのですが、南多摩高校の先輩、後輩が意外と多くいることを知りました。南多摩高校は、現在なくなりましたが、非常に良い学校だったと思います。

現在、東京都を定年退職して八王子市にある公益財団法人東京税務協会八王子事業所（東京都八王子自動車税事務所）で働いています。仕事の内容は、都税のうち、自動車税（種別割・環境性能割）の申告納付の受付事務です。私は、庶務・施設管理の担当で、税の関係は10名の職員が行っています。

税務協会は、65歳定年ですが68歳まで3年延長して働くことが出来ますので、もう1年ほど働く予定でいます。

特集：「南高新聞」の記憶

昭和 45（1970）年卒業の皆さんが当時の思い出を寄せてくれた。

それまで志望校の単独受験だった都立高校の受験制度が、志望校が複数の学校群となり、受験後に入学する学校が振り分けられる群制度変わった最初の卒業生である。

社会情勢は、ベトナム戦争や学生運動が新聞紙面を飾り、卒業後も大学受験は「受験戦争」と呼ばれる厳しい時代が続いていた。

当時、南多摩高校では、生徒会の組織として常置委員会が設置されており、生徒会の活動状況や学校生活の出来事を伝える「南高新聞」が発行されていた。

新聞のサイズは、通常の新聞の半分のタブロイド判と呼ばれるサイズである。不定期だが年に数回発行されており、文化祭や体育祭、合唱祭といった学校の主な行事のほか、クラブ活動の様子も掲載されていた。

今回は、昭和45年卒業の皆さんの記憶を、南高新聞の記事で探してみた。半世紀以上前の記憶と記録が結びつくことで、当時の学校の様子や一人ひとりの高校生活の様子がより具体的に浮かび上がるのではないだろうか。

110年を超える南多摩の歴史の半ばにあたる60年目に在籍していた卒業生である。一人ひとりの想い出の中に、「南多摩」の歴史の１ページが綴られている。（編集子）

南高新聞の記憶

南多摩高校時代
まさに青き春でした

昭和 45 年卒　齋藤 良一

想い出深いことは多々有りました。なかでも、サッカー、痛恨の極みの日があります。

創部 4 年目のサッカー部に入部し 2 年の時の関東大会東京都代表決定試合です。八王子での予選を通過し準準決勝、準決勝と勝ち進み、駒沢公園での決勝に進出しました。相手はあの時代の強豪校、早稲田学院です。

1 点を取り、リードして前半が終わり後半へ。なんでしょうか、我がチームは浮き足立ってきたのでしょうか、つまらないミスからあれよあれよと 2 点を取られ 2 対 1 逆転負け!!

私は思いました、決勝戦の経験のなさだ、またくるぞ!!しかし！ある事情から休部に落ち入る部員が続出し、キャプテンの私まで休部の憂き目にあってしまいました。

時は流れ、白き秋、同窓会を開くと言う話が聞こえてきました。不完全燃焼した仲間たちともう 1 度チームを組みたい！しかし、白き秋となった今「サッカーは無理だ、そうだソフトボールならいけるぞ、チームを作ろう」と同窓会幹事に頼み「ソフトボールを中心にした集まりをつくりましょう!」としたためたビラを会場で配りました。その結果、サッカー部だけでなく、バレーボール部、バスケット部、卓球部、柔道部、野球部、ハイキング部からの参加者があり、2011 年の 7 月の暑い日にチーム南多摩は始まりました。

女性、夫婦でユニホームを作った人もいて 27 人程のユニホーム姿が揃いました。現役の南多摩中高生のチームに試合を申し込み、受けていただきました。良い想い出です、あの時の少女達、ありがとうございました、覚えていますか？まだ私達は現役ですよ。また、チームを組んで試合をしませんか？

全日本ソフトボールチームが合宿に使用する天城ドーム球場で我がチームも合宿をしました。また、友人の別荘を西伊豆倶楽部ハウスと勝手に称して自由に 10 年間数えきれないほど使わせていただき BBQ などして親睦を深めました。今も月に 2～3 回は練習、試合をしています。この集まりはソフトボールだけでなく、釣り、麻雀、ホームパーティーetc と親陸、交流のプラットフォームになっています。この春からは寺町の妙経寺の住職小島夫妻のご好意で年に３回は客殿で宴を開く予定です。参加される方、歓迎です。

還暦に始まり今や古希「つぎは喜寿だな！」を合言葉に楽しんでいます。

同窓の皆様！チーム作って私達と試合しませんか～？

「南高新聞」第 61 号　　（昭和 43 年 3 月 10 日発行）

サッカー部

最近のサッカーブームが我校にもおしよせた様で、一年生も多数入り先輩諸君も彼らに多大な期待をよせている様である。

目標は都下一位になることとあって練習もなかなかきびしい様である。放課後逸速くグラウンドに出て、まずランニング、円になって準備体操、そして基本練習と次から次へとその動作の機敏さ、かけ声の勇ましさはいかにも高校生らしく、また男らしい。その練習も三学期に入ってからは来年の新入生のため基礎練習中心になったそうである。新入生がこのクラブに多く引かれる理由は、そんな繊細な神経にあるのかも知れない。

ところで二年生の大関君は南校サッカー部について、「高校に入って初めてという人が多いため技術的には随分劣っており、このクラブがこれ程良い成績を上げた最大の理由は〝やればできる〟という自信と、チームワークの賜物である。」と言っている。

彼の言葉からも分かる充実したサッカー部。予算も充分（？）取った。より一層の飛躍を期待したい。

なお、サッカー部この一年間の成績は16戦11勝3敗2引き分けと真にリッパな成績である。

「南高新聞」紹介の経緯

1年後輩の旧姓・真上様より「昭和45年卒の同窓会活動が活発、特にサッカー部が都大会決勝で惜敗した時のメンバーは面白い！」と。サッカー部元主将斎藤氏からの原稿がすぐに届きました。原稿を読みながらフト思いついたことが…。

「都大会で決勝戦はかなりのビックニュース、南高新聞で取り上げているはず、と50年昔の「南高新聞を！」を探したところ、そのものズバリの記事は残念ながら見つからなかったけれど、当時のサッカー部のことが書かれている新聞が見つかり、幸いにもページに収まりましたので、ここに掲載させて頂きました。

その新聞紙面には私に連絡を下さった真上様が生徒会活動で活躍している様子が記されていました。不思議な気分になりました。　　（昭和44年卒 井上 務）

南高新聞の記憶

南多摩高校・演劇部の思い出

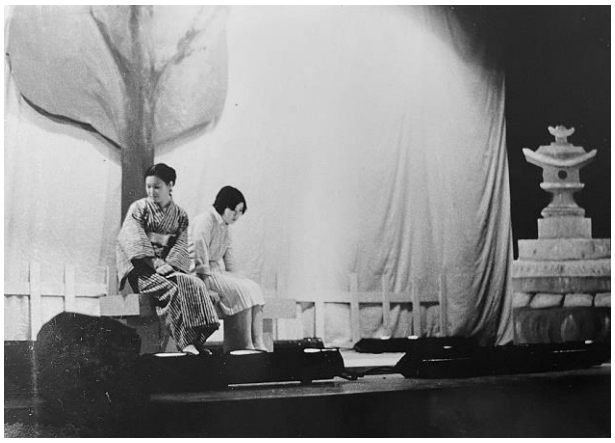
昭和 45 年卒業　川勝（旧性　武田）実鈴

高校時代の思い出と言っても、もう半世紀以上前のこととなってしまいました。

私達の学年は、学校群制度の入試が始まった年で、南多摩高校は富士森・日野と一緒のグループでした。どこに振り分けられるか不安はありましたが、国・数・英の３教科だけで、問題も比較的やさしかったと記憶しています。答案を見直しても、時間を持て余していました。

そんなゆるい入試を経て、入学した南多摩高校は自由な校風で、楽しく過ごしました。コロナ禍で学生生活を送っている皆さんは想像もつかないと思いますが、とても密で濃厚な３年間でした。

特に思い出すのは、演劇部の仲間と過ごした色々なことです。１年生のときは、校庭の片隅で舞台装置を作りながら、「道具がない」「ノリが足りないから、作ってきて」とジャージを着て走り回っていたので、運動部と間違えられました。衣装のセーラー服を着て屋上で発声練習していたときに、他校の生徒と思われ、ナンパされそうになったこともあります。



演劇「母と娘」から　左母親役が筆者

２年生の時は、当時の大学紛争の煽りで、文化祭が中止になるかもしれない事態となり、体育祭終了後に緊急の話し合いとなりました。準備してきたものを無駄にしたくないので、中止反対を必死に訴え、文化祭も無事に何事もなく終えました。公演が近づくと朝練もありました。お腹がすいてお昼まで待てないので、休み時間にお弁当を持ち寄り、食堂で早弁していたことも思い出します。よく食べ、よく笑い、今思うと女子なのに呆れてしまいます。

まだまだ思い出はありますが、この３年間で得た一番の宝は、一生の友となった演劇部の仲間です。今でも続いています。グループラインで、愚痴を言ったり、悩みを相談したり、わからないことを教え合ったり、他愛もないことを話したり･･･と生活の一部となっています。

高校野球で、監督が「青春は密です」とおっしゃっていましたが、まさにそのとおりだと思います。早くコロナ禍前の密な学生生活を送れるようにと願っています。

スケート教室で演劇部の仲間と　左後ろが筆者

「南高新聞」第60号　（昭和42年11月24日発行）

クラブだより

演劇

文化祭の準備でどのクラブも活発に活動している中で、演劇部を訪れてみた。朝は早くから屋上で大きな声を出して発声練習、放課後は舞台の照明器具のとりつけ、練習、話し合い、とかなかいそがしいようだ。全部員十五人が一体となってがんばっている。いそがしさの中にも明るい雰囲気がある。にぎやかなクラブの一つといえるだろう。

今回の公演は、「広島の女（ひと）」という戦争をテーマにしたものだが、部員のほとんどがこの公演をやりたがっていなかった。というのは、戦争を体験していない自分たちがこういう劇をやるということは、ただの〝つくり物〟になってしまうのではないかという懸念があったからである。それでもこれ以外に良い脚本がないため、この劇をやらざるを得ない。しかし、「やる以上は絶対にすばらしい物にしよう」と部員一同の決意は堅かった。そして自分たちに合ったものをやるに越したことはない。そういう意味で、一般生徒の創作を募集している。創作された方は、二年三組の小俣さんまでとのことであるから多数の協力を望みたい。

南高新聞「クラブだより」

年に数回、不定期で発行されていた南高新聞には、新聞委員の取材による当時のクラブ活動の様子が紹介されている。平澤さんたちが活動していた当時の演劇部も左の紹介記事が掲載されている。記事にある今回の講演とは、文化祭での講演のことのようである。

右の記事には、文化祭の講演の様子が紹介されており、講演は日ごろの活動の成果が実り、成功だったことが分かる。そんな仲間だからこそ半世紀以上経った今も交流が続いているのだろう。羨ましい限りである。

（編集子）

そして、公演の見どころの一つである演劇は、原爆で両親を失い顔に醜いケロイドを残された女教師と、戦争で両親を亡くした生徒との師弟愛を描いた「広島の人（ひと）」を上演した。

出演者の熱心さは心を打つものがあり、化粧など細かい点にも工夫がこらされてあったようだ。

南高新聞の記憶

演劇部の仲間との交流

昭和 45 年卒業　平澤（旧性 藏）康子

「おはよう」「おはよう」

今日もグループラインの画面がにぎやかです。このグループ7名は、南多摩高校昭和45年卒業の演劇部の仲間です。

誰かの呼びかけで、そろってランチに行ったり、大阪に住む友人の上京に合わせて集まったり、観劇に行ったり、友人の伝手で送ってもらった北海道のラベンダーでラベンダースティックを作ったりしていました。ラベンダーの時期を逸してしまったときは「アロマワックスを教えるよ」との発案で、アロマワックスを作ったこともあり、その時々での楽しみを見つけては集まっていました。

その後のコロナ禍でも、ライン画面は一人旅の報告や孫の嬉しい報告、心配事、身体の不調、娘の愚痴など次々に飛び出します。でも、息子の連れ合い（嫁さん）の愚痴が一切出ないところが、このグループの素敵なところです。

昨年6月、コロナ禍のはざまに久しぶりに集まりました。グループラインで仲間の日常は把握していても、顔を合わせて話をするのは格別です。

暑い日でしたがランチを楽しみ、緑の木陰でおしゃべりをして、心地よい一日を過ごしました。大阪に住んでいて来られなかった友人には、集まりの写真を送って時間を共有しました。

このとき、今年6月に開店2周年となる大阪の友人のお店へ皆でお邪魔して、その後にその友人も一緒の京都行きが決定しました。その1年後がもう目の前です。果たしてどんな旅になるのでしょうか。今から楽しみです。

演劇部同期　ホテルでのランチ会

卒業して53年、最近は歳なりに身体の不調が出る人もありますし、お連れ合いとの永遠の別れを経験した人もいます。「山あり谷あり」の人生も、共感や励ましが届きます。そして、「いつまでも元気で会えるように、身体を鍛えて頑張ろうね」の言葉がライン画面に溢れています。

今の元演劇部は、あの高校時代が今も続いているような、いいえそれ以上に優しさ溢れる関係になっているような気がします。この素敵な仲間との集いを、これからも元気で続けたいと思っています。

南高新聞の記憶

南多摩高校での思い出

昭和 45 年卒業　宍戸　敏一

私は、昭和42年に学区制が施行された初めての生徒として、本校に入学しました。男子生徒150名、女子生徒250名、合計400名でした。

先輩方は、一学年男子100名、女子300名でしたので、朝の登校の様子を教室から眺めると、女子の間に男子がポツンといるような光景でした。

クラブ活動は中学でバレーボール、野球をしていましたので、バレー愛好会に入りました。監督もコーチもいない手作りの部活動でした。対外試合はできましたが、公式試合には参加できないので、物理の先生にお願いして顧問になっていただき、部昇格の運動を展開し、2年生のときに部として生徒会に認めていただきました。

部活動での思い出は、なんでも自分たちで話し合いによって決めなければ、何も前に進めませんでした。まさに手作りの部活動でした。そして嬉しかったことは、１年後輩が公式戦でコート決勝で負けはしましたが、そのときに高校ナンバーワンの中大付属高校と戦えたことでした。

部活動で得られた経験は、私のその後の人生に大いに影響を与えてくれました。出来上がった組織で活動するのもいいですが、苦労してでも手作りで組織を作って行くことに喜びを感じられ、いろいろな活動をしてきました。

3年生になっていよいよ受験勉強に本腰を入れようというとき、世間はスチューデント・パワーの嵐が舞

い上がり、わが校にも押し寄せてまいりました。朝日ジャーナルを片手に、教育、政治について真剣に向き合った経験をしました。その経験で、大学では国際関係論の勉強をし、その後の社会人としての礎になりました。

現在私は、八王子市にある軟式少年野球チーム（川口ジュニアーズ）で、27年間マネージャーをしております。嬉しいことに、本年卒団生の中から社会人野球の鷺宮製作所に木代成選手、ジャイアンツ女子チームに村川裕月選手が入団することになりました。

川口ジュニアーズでの筆者

ブラボー！！

また、その他の卒団生も、社会の第一線で活躍しているとの報告が入っております。これからも日本の宝・地域の宝である子供たちの育成に、微力ではありますが関わっていきたいと思っています。

南高新聞の記憶

高校時代の思い出

昭和 45 年卒業　官林（旧性 小野田）恵子

気づけば還暦・古希を通過し、南多摩高校を卒業してから半世紀以上が経っているのだと。

自分でも驚くばかりです。あまりにも昔で、高校生活は断片的にしか思い出せません。

1年生のときは、創立60周年の記念の年でした。合唱コンクールがあり、入賞を目指してクラスの男女一丸となって、早朝や放課後に一生懸命練習しました。部活では茶道部に入り、お点前の稽古に励みました。2年生の文化祭では、茶席券の販売で苦労したことを憶えています。また、冬場の体育の授業ではいつも浅川の土手を走らされ、それが嫌で風邪気味とか何だかんだと理由をつけさぼりたいと考えていたことを思い出します。

3年生のときに東大の安田講堂での事件がありました。我がクラスもその影響を受けて、資本主義体制への不満や「格差社会においては努力しても報われないのではないか」などの言葉を、教師に強く投げかけるクラスメートがいました。その頃の私は無知で、彼らの態度にただ驚くばかりでした。

当時の教師から「自分は今どのような立場なのか、何をすべきなのかをよく考え、まずは様々な知識を得て物事に対する判断力をつけることに専念すべきだ」と諭され、皆が我に返り納得したという印象深い出来事もありました。思い返すと、政治や社会に対してあれほど熱く関心を持って訴える高校生が、果たして今もいるのだろうか、と時代の差を感じます。

昭和52年に、結婚を機に福島県での生活が始まりました。そこで35年が過ぎ、子育ても終わり職場での定年を迎えた年、2011年3月に東日本大震災が発生しました。私の住んでいた町は原発避難区域にあったため、娘が住んでいた千葉県成田市に避難しました。震災から10年以上が経ち、放置されていたかつての街の家々はほとんどが解体され、景色はすっかり変貌してしまいました。多くの住民は、未だに帰還困難のまま現在に至っています。人生の後半になって、思わぬ展開で再び関東圏に戻ることになりましたが、そのことで35年以上離れていた昔の級友と会う機会も増え、いろいろな形で助けてもらいました。

同級生も皆70歳を超え、それぞれの人生を送ってこられたことでしょう。僅か3年間の高校生活でしたが、一緒に過ごした友と話をすれば、一瞬にして学生の頃にタイムスリップできるものですね。同じ年月を生きてきた仲間として、残りの道を穏やかに無事に歩いて行けるよう願うばかりです。

「南高新聞」第60号　　（昭和42年11月24日発行）

文化祭

10/9.10

―説明のほしい展示―

今回の展示にはクラブ展示の他に、三年生のクラス展示も入り、多少規模も大きくなった。

まず北館では、家庭科クラブがとても美しい手芸の展示を二部屋に渡ってしてあった。日常どこにでもあるような材料をうまく利用したものなどきれいに展示されていた。

また、となりでは文芸部が夏目漱石に焦点をしぼって追求していた。二十四号室では珠算部と、三年八組の展示が行なわれていた。

一階では地歴部が去年と今年の発掘報告とそれに関するスライドを上映しており隣りでは八王子織物史の研究発表を行なっていた。中でも、織機を使って実際に布を織っているところなどは注目を浴びていたようである。

この他に二階では、社研・美術といったクラブが展示をしていた。

本館では華道部がたくさんのいけ花の展示の他に、実演とともにドライフラワーの作り方の説明をしていた。

そのとなりでは茶道部がお茶会を開いていた。ふだんはあまり茶道などとは縁のないような男子諸君の姿もかなり見られた。

茶釜や美しい茶わんをよそに、お茶の作法に気をとられ、半分ボケをかまされながら、お菓子を食べ、お茶をたしなんで、出てきたときにはしびれをきらしている光景も見られた。

また二階では家庭科クラブが食堂を行なっており、昼ともなると被服室の食堂、中庭のテーブル、ともに満員となり、クラブの人たちはてんてこまいであった。

東館では同じく家庭クラブのバザー、個人展示、他に三年四組の

二階では写真部が楽しい写真を展示していたほかユネスコ部・天文部・生物部・化学部といったクラブが見られた。

お茶よりお菓子の方が

この新聞の1面には「創立60周年祭」の記事が掲載されている。南高祭も記念行事の一環に位置付けられ、文化祭は10月9日と10日の二日間にわたって行われた。

あかね会の同窓会活動・母校支援について

南多摩同窓会あかね会事務局　溝口 猛

◆令和4年度「あかね会定期総会」が 3 年ぶりに開催されました

令和4年5月15日(日)11時から八王子エルシィーにおいて、一同に会しての南多摩同窓会あかね会定期総会が、3年ぶりに開催されました。出席者はコロナ禍の影響がある中で24名と少なめでしたが、平成23年卒、平成27年卒、令和3年卒と若手6名の出席がありました。
第１部の定時総会は、中村晋也副会長（昭和53年卒）の進行のもと、堀竹充会長（昭和48年卒）による挨拶、議長には小山隆司常任委員（昭和36年卒）を選出して議事に入りました。

令和3年度の事業報告は西澤篤司庶務（平成2年卒）、決算報告は臼井実千恵会計（昭和46年卒）により行われ、加藤晃会計監査（昭和38年卒）から監査報告が行われました。各報告とも異議はなく、承認されました。続いて、令和4年度の事業計画案、予算案が担当役員より説明され、これらも特に質問や異議がなく承認・可決となりました。

さらに、役員の紹介が堀竹会長からされ、各役員が自己紹介に立たれました。このように定期総会の議事は滞りなくスムーズに進行しました。

第2部として、この2年予定していたのですが、コロナ禍で延び延びになっていた和田智竹氏による講演会が開催されました。和田氏は、母校を平成23年に卒業され、総合研究大学院大学・博士課程在籍中の学生さんです。演題は、「南極で暮らす知られざる生物」と題した講演会を開催しました。

和田氏は、2018年11月から4か月間南極地域観測隊に参加された経験を持ち、2019年11月に中等教育学校4年生を対象にした「先輩に学ぶ」授業をしていただいた方です。動植物への深い関心や、南極観測隊の経験を踏まえて、南極観測船内での生活や南極での研究活動について活き活きとご講演をいただきました。

第3部の懇親会は、入沢修自庶務（平成5年卒）司会進行により始まりました。

黒須隆一顧問による乾杯のご発声のあと、暫く食事と歓談が進みました。その後、第2部講演会についての会場から質問に対して、再度、和田氏に登壇いただきました。質問に答えて、研究者の道に進むまでの紆余曲折、研究に対する情熱を伺うことができました。

また、今回の参加者のうち若手会員から、自己紹介と近況報告をいただきました。会も終わりに近づき、恒例となります母校校歌「湧水は街を巡り・・・」をアカペラで高らかに合唱し、会は盛り上がりました。結びに、中村晋也副会長の閉会の辞が行われ、すべての日程は無事終了となりました。

今回は、コロナ禍で学校関係者などの出席が難しいと判断され、学校長をはじめ、ＰＴＡ会長、ＰＴＡ0Ｂ会幹事長にはご招待の声をかけずに行われました。少し寂しさが漂う会となりましたが、20歳代の若手会員が参加されて、今後の会の活動に期待が持てる会となりました。

◆あかね会役員会･常任委員会

○第1回役員会（5月7日開催）

5月15日(日)の総会準備のため、役員会が開催されました。会計監査（4/21）、会報「みなみたま」の発行（4/20）の報告と八王子エルシーでの定期総会（5/15）の開催の準備の協議がされました。

冒頭、母校の森永校長先生から、松井副校長の就任したこと、吉田沙保里さんの学校訪問で「目標を見つけて一度きりの人生を大切にしてほしい」との吉田さんのメッセージが紹介されました。

○第2回役員会（6月18日開催）

総会の実施状況と年間日程の確認などのため、第2回目の役員会が開催されました。冒頭、母校の小泉副校長先生から、体育祭（5/26）が富士森公園陸上競技場で実施され、コロナ禍で中止されていた合唱祭（6/16）が3年ぶりに開催されたことが報告されました。

報告事項は、会報発行、定期総会、学校支援協力金などの実施状況が報告され、あかね会の入会案内、「南魂祭」への参加中止、母校への支援などが協議されました。また、太鼓部が全国総合文化祭（東京開催）の出場前に7月下旬に壮行会を開催することが学校から報告されました。

○第1回常任委員会（10月22日開催）

第1回目の常任委員会が開かれ、会報発行、総会開催、「南魂祭」の参加中止、学校支援協力金の実施状況が報告され、新年会の開催、令和5年度会報の発行について協議がされました。

冒頭、浜中副会長から、堀竹会長が体調を崩され浜中が次の総会まで会長代行に就くこと、母校の副校長先生から三菱未来財団からWWFへの助成を受けた、あかね会から新型コロナ抗原検査キットの援助を受けたことなどが報告されました。

協議事項では、令和5年度の会報発行は令和4年と同じ

規模で発行する、新年会の開催はコロナ感染が落ち着きを見せていたので、1月21日(土)にエルシー八王子で新年会の開催することが、了承された。

なお、年末に新型コロナの感染状況が急増し、1月中旬に第8波のピーク（3万人）が予測されることから、残念ながら開催中止が決定されました。

○第3回役員会（1月21日開催）

令和5年度の広報発行、これに伴う広告の募集、次年度の総会開催の協議のため、開催されました。

広報記事の編集状況の確認、広告募集の案内発行と申込状況、5年度総会の準備に向けた協議が役員会で行われました。

○第4回役員会（2月25日開催）

広告募集の申込状況、広報記事の編集状況などの最終確認と5年度の総会開催の協議のため、役員会が開催されました。

○第2回常任委員会（3月25日開催）

第2回目の常任委員会が開かれ、令和5年度の会報発行と記事の確認、次年度総会の開催準備のため、報告と協議がされました。

◆お知らせ

◆ホームページをリニューアルしました

2009年から運用していた同窓会のホームページを、2023年1月にリニューアルしました。ホームページの項目は変わりませんが、古い記事を整理しましたので、必要な情報にアクセスしやすくなりました。

古い情報をご覧になりたい場合は、旧サイトも残してありますので、トップページ左下からアクセスしてください。ただし、旧サイトの情報は更新していませんので、ご承知おきください。

なお、URLの変更はありません。

（URL） http://www.akanekai.org

◆会員名簿を有償頒布しています

あかね会は、会員相互の親睦・研修と母校の支援活動の充実に努めています。同窓生のつながりを確かなものとするため、2018年2月初旬に、あかね会「会員名簿」を10年ぶりに発行しました。

発行は、実績と信頼のある業者に調査・作成を依頼し、約1500名の方々にご購入いただきました。会員名簿を、同期会やクラス会開催の折にぜひご活用いただければ幸いです。なお、会員名簿に若干の残部があります。ご購入ご希望の方は有償（送料込4,600円）で頒布します。

⇒連絡先溝口猛【電話】090-6489-5939

◆同窓会会報「みなみたま」へ広告掲載のお願い

あかね会では、学校や同窓会に関する情報を会員に幅広くお知らせするために、 毎年4月末に同窓会会報『みなみたま』を15,000部ほど発行しています。

広告料は、母校の学校支援等に使用させていただいており、広告応募者には、会報に広告を掲載するとともに、同窓会のホームページ（https://www.akanekai.org/）にも1年間広告を掲載します。

広告料金は、名刺サイズ（縦5.5cm横9.25cm）で、カラー1枠が2万円、白黒1 枠が1万円です。

広告掲載は24枠限定で、申込先着順で24枠となった時点で締め切らせていただきます。

掲載内容は、簡単なキャッチコピー、事業所名、住所・電話・FAX、httpアドレス、卒業生氏名・卒業年度などです。

令和6年度のあかね会会報に、広告の掲載を希望される方は、本年11月末までに下記までご連絡いただきますようお願いします。新規の希望者を募っています。

皆さまのご支援・ご協力をお待ちしています。

【連絡先】中村　晋也　電話：042（689）4149

e-mail：　sinya@unto21.com

図書館の床

軽井沢別荘の外壁

ミャンマーチーク販売　株式会社
〒206-0033　多摩市落合3-8-9　青木葉通りビル1F
https：//www.myanmar.co.jp　☎042-400-1067
代表取締役　臼井成美　取締役　臼井実千恵（旧姓 岡村／昭和46年卒）

Sankyosha
刷新ing
お任せ下さい！印刷のすべて。
取締役副社長　野口　冨巳子（昭和35年卒）
有限会社　三共社
〒192-0041 東京都八王子市中野上町2-29-1
TEL.(042)625-8325　FAX.(042)625-8369
http://www.san-p.co.jp

南多摩高校
平成３年卒業
歌手
伊達めぐみ

エス アンド エーキュー ジョシ
S.and A-9女史
祝 ユニットを組みました！
有線放送 第１位獲得！

八百屋音頭 c/w
第1位

山梨ワインと家庭料理
ホテルベル鐘山
富士山リゾート＆ビジネス
Tel 0555-24-8888
(有)オフィスめぐみ・伊達めぐみ後援会事務局 山梨県富士吉田市上吉田東9-8-10

学校法人 片柳学園
理事 黒須隆一【昭和35年卒】
東京工科大学
日本工学院専門学校　日本工学院八王子専門学校
日本工学院北海道専門学校　東京工科大学附属日本語学校
www.katayanagi.ac.jp

有限会社 保寿産業
代表取締役　小川 禎子（昭和 31 年卒）
〒190-0023 立川市柴崎町1-9-32
TEL：042-526-2646　FAX：042-529-7500

水と住まい、インフラをつなぐ会社です。
株式会社 市川工業所
専務取締役　野澤 経子（旧姓 市川）（昭和 55 年卒）
〒192-0065 八王子市新町8-4
TEL：042-642-4808　FAX：042-642-6829

法あるところに救済あり！
司法書士・行政書士 空衣（そらい）事務所
相続登記はお早めに！
代表 入沢 修自(平成5年卒)
〒206-0011 東京都多摩市関戸4－23－1 関戸ビル301
電話:042-389-5570 Fax:042-389-0755
http://www.sorai-law.com

TKC. KFS 推進事務所
税理士法人 西東京会計
代表社員　加藤 晃(昭和38年卒)
〒192-0032 東京都八王子市石川町 733-4
TEL:042-644-1771　FAX:042-645-7372
http://www.tkcnf.com/ntk/

冷凍食品で楽しい給食（病院、施設の給食品専門問屋）
増田屋
株式会社 増田禎司商店
代表取締役 増田太郎／増田敦子(旧姓 土屋)(昭和34年卒)
〒193-0801 八王子市川口町 1415
TEL:042-654-2222　FAX:042-654-5049
http://www.masudaya.1965.com
mail:info@masudaya1965.com

一級建築士事務所
株式会社 浜中企画
浜中 賢司（昭和44年卒）
〒193-0801 八王子市川口町 3411
電話:042(654)4325　FAX:042(654)6128
mail:hamanaka@tokyo.email.ne.jp

NPO法人
八王子・台湾友好交流協会
理事長 黒須隆一
（昭和35年卒）
〒192-0046 八王子市明神町3-11-11-601
TEL・FAX 042-644-5580
携帯 090-6150-4965

日用品・化粧品　100%オーガニック製品のご案内
自然環境を守り、私達の体内に添加物入れない製品です。
レ マリ企画
代表 五十嵐 満理子（旧姓 橋本）（昭和34年卒）
〒193-0943 八王子市寺田町13
TEL・FAX 042-661-3011

診療時間 [午前] 9:30～13:00 [午後] 15:00～19:00 (土曜は18:00まで)
糠信歯科医院
院長　糠信 安宏(南多摩中等教育学校歯科校医)
糠信 和代(昭和29年卒)
八王子市明神町4-2-9 昴ハイツ2F(京王八王子駅西口出口前)
電話：042-642-3131〔休診日：木曜・日曜・祝祭日〕

税金のご相談は
おざわ会計
税理士 小澤 麻理（旧姓 小野島 平成5年卒）
TEL 042-663-6683　おざわ会計 八王子
〒193-0832 八王子市散田町 3-19-19　2F

不動産プラザHAGIUDA

代表取締役 萩生田 俊一
（平成元年卒）

50周年を迎えました 50th ANNIVERSARY

萩生田観光株式会社
〒192-0355 八王子市堀之内三丁目 29 番地 20
TEL：042-675-3111　MAIL：shun@hagiuda.co.jp

心のふるさと
祈りのお山

高尾山

薬王院 前貫首　大山 隆玄（昭和28年卒）
貫　首　佐藤 秀仁
http://www.takaosan.or.jp

オーダーニット・コーディネーター

浅野 常子

（昭和34年卒）
090-1422-1192

～世界にひとつのニットアパレル～

齋藤都世子作品ルーム・八王子

〒192-0904 八王子市子安町3-32-10シティポート八王子106号
hachioji.asano@tbt.t-com.ne.jp　Tel＆Fax 042・646・9833
https://www.saitoknit.com

日野・八王子を中心に全国で活躍中！
シンガーソングライター（イベント出演・楽曲提供）

SIO（シオ）小塩 晶人（昭和62年卒）

SIO「僕らの町コンサート 2023」 2023 6/18（日）
日野市市民会館大ホール　15:00 開場　料金一般 3,000 円
詳しくはお問合せください。
http://sio.or.tv （SIO ライブで検索）
mail:Sioroom@icloud.com

医療法人社団 大島会

大島耳鼻咽喉科クリニック

院長 大島 清史
大島 富子（昭和25年卒）
〒192-0046 八王子市明神町 4－5－9
TEL：042-642-8012
http://www.oshima-ent.com

ISO 9001 認証取得
エコアクション21認証取得

黒須建設株式会社

代表取締役社長　黒 須 光 隆
取締役　黒 須 俊 輔（平成20年卒）

本社 〒192-0063 東京都八王子市元横山町1-29-12
TEL 042-642-5331(代)　FAX 042-642-5314
http://www.kurosu-kensetsu.co.jp

世界遺産“日光”を戦火から救った石坂弥次右衛門義禮の眠る

曹洞禅宗 萬松山 興 岳 寺

土井 俊玄（昭和 29 年卒）
〒192-0835 八王子市千人町 1-2-8
TEL:042-661-5268　FAX:042-661-5357

●読経会(法話を含む)毎月第1土曜日午前10時より　●茶道教室(表千家流)毎月第3土曜部午後1時より
●写経会　毎月第3土曜日午前10時より　●煎茶道教室(清泉幽茗流)毎月第3土曜部午後1時より

食品プロの御用達市場

八王子総合卸売センター ㈱

前取締役会長 佐藤 美千枝
（旧姓 勝田　昭和21年入）
〒192-0906 東京都八王子市北野町 584-30
TEL：042-645-6500

NAKANO
学校法人 八王子中村学園
なかの幼稚園

なかの幼稚園　そこは
子どもの世界です。

〒192-0041 八王子市中野上町 5-32-13
TEL:042-622-3001・FAX:042-624-3103
http://www.nakano-kd.ed.jp/
前理事長 中村 健(昭和46年卒)

グループホーム

びおら

高齢者認知症の方の共同生活
介護を提供しています。

齊藤　万理子（昭和44年卒）
〒192-0056八王子市追分町9-4
TEL.042-682-1301
FAX.042-682-1305
http://www.biora.biz

豊田駅北口徒歩２分

あさひ耳鼻咽喉科クリニック

谷合　隆（昭和 44 年卒）
〒191-0062 日野市多摩平 1-4-19 藤ビル 3F
TEL：042-587-4800

伊藤税務会計事務所

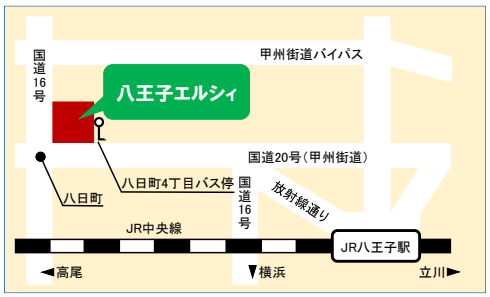
税理士 伊藤　正啓
伊藤　幸子（昭和32年卒）
〒192-0045 八王子市大和田町3－6－21
TEL:(042)642-2719　FAX:(042)642-5034

「令和5年度　南多摩同窓会あかね会　定期総会」について

南多摩同窓会あかね会は、毎年、5月の第3日曜日に八王子市内で定期総会を開催しています。（「南多摩同窓会あかね会」規約第7条）

毎年、定期総会に続き、卒業生などを講師とした講演会を開催し、そのあと新入会員の紹介、懇親会を開催します。定期総会は、現在の母校を知る機会であり、共に学んだ仲間との再会、先輩や後輩の新たな出逢いの場でもあります。同級生、クラブ活動を共にした仲間等と誘い合ってご参加ください。

なお、新型コロナウイルス感染症等の影響により、総会を中止する場合もあります（ホームページでお知らせ）ので、ご承知おき願います。



八日町交差点角（八日町４丁目バス停下車）

令和5年度　定期総会

【日時】令和5年5月21日（日）　11時～
　　会場受付　10時30分～
【場所】八王子エルシィ【八王子駅　下車バス5分】
　　八王子市八日町6-7　☎042-623-2111
【懇親会費】5千円（学生2千円）
　　（会費は当日徴収します）
【プログラム】
総会　11時～11時40分
　　事業報告・決算、事業計画・予算、その他
トークと歌謡　11時50分～12時30分
　　出演　伊達めぐみさん（平成3年卒業）

「伊達めぐみ　トーク＆歌謡ショー」
歌手歴30年。幼少期から詩吟や民謡を聞いて育つ。富士吉田市で「ホテルベル鐘山」を経営

懇親会　12時40分～
昼食、懇談、新入会員の紹介等

【申込方法】常任委員を通じてお申し込みください。
又は、下記へ5月13日（土）までご連絡ください。
【メール】mail@akanekai.org
【電　話】　入沢　修自　☎080-5075-5570
　　溝口　　猛　☎090-6489-5939

「学校支援協力金」のお願い

会報「みなみたま」第14号の発行は、卒業生会員（約3万名）のうち物故者、消息不明の方を除いた1万5,000名の方にお送りしました。

「学校支援協力金」は、同窓会として在校生の学習、部活動、進路指導、卒業生への卒業証書フォルダーの提供などを積極的に支援するとともに、同窓会の活動の継続を目的に、卒業生の皆様にご協力をお願いするものです。

学校が中等教育学校となり、在校期間が6年間になり卒業生が1/2に減少したことに伴い、卒業時に納入いただく同窓会会費も半分に減少しています。1口千円で、なるべく2口以上のご協力をお願いします。

令和3年度から、協力金の払込みは、郵便局のほか、コンビニエンスストア（2千円の払込みに限ります）からもできますので、ご協力をよろしくお願いします。

ご協力は任意ですので、お志のある方は可能な範囲でご協力をよろしくお願いします。

住所変更の際には、同窓会にご一報ください

毎年、広報紙を発行すると、多数の戻り便が発生しています。会員の皆様にご住所やお名前の変更がありましたら、同窓会の名簿担当にご連絡ください。

【メール】meibo@akanekai.org
【郵　便】〒192-8562　八王子市明神町4-20-1
都立南多摩中等教育学校内　あかね会名簿担当あて

【編集後記】

今号の表紙の写真は、南多摩高校最後の卒業生、荒川美涼さんからご提供いただいた。沖縄の青い空と明るい海辺を背景に、3人の若者が跳び上がる姿には、コロナ禍で重苦しかった3年間を吹き飛ばす逞しい力を感じる。

100年を超える南多摩の歴史の中には、さまざまな困難も鏤められている。第二次大戦では、空襲で校舎が全焼し、物資の乏しい中、生徒たちは焼け跡から校舎再築のための釘拾いもした。自分たちの学びの場を自らの手で作ろうとしたのである。そんな先輩たちは、今も母校のことを愛し、南多摩の卒業生であることを誇りに思っている人が多い。出口の見えない新型コロナウイルスの感染対策も学校にとっては、大きな困難の一つだったと思う。長かったトンネルの出口が漸く見えてきた。再び元気な声が学校全体に響き渡る日も近いだろう。卒業生もそんな学校の姿を早く見たいと願っている。（菱山）